

総務省、東京都並びに（公財）統計情報研究開発センター主催 “統計データ・グラフフェア”開催 10月28日、29日の2日間、日本品質管理学会賞や日本統計学会会長賞など作品展示



新宿駅西口の展示広場で開催中の統計データ・グラフフェアの会場入り口



総務省統計局の統計関連パンフレットの展示コーナー



オープン直後にも係わらず続々見学者が・・・



統計教育に関連したパンフレットも展示され・・・



総務大臣賞や文部科学大臣賞なども展示されました

10月28日（土）、29日（日）の2日間、東京新宿駅西口広場のイベントコーナーで《統計グラフ全国コンクール》の入賞作品を展示する「統計データ・グラフフェア」が開催されました。

毎年開催される《統計グラフ全国コンクール》には今年は全国から26,447点の応募があり、総務大臣賞や日本統計学会会長賞、日本品質管理学会賞などが選ばれました。

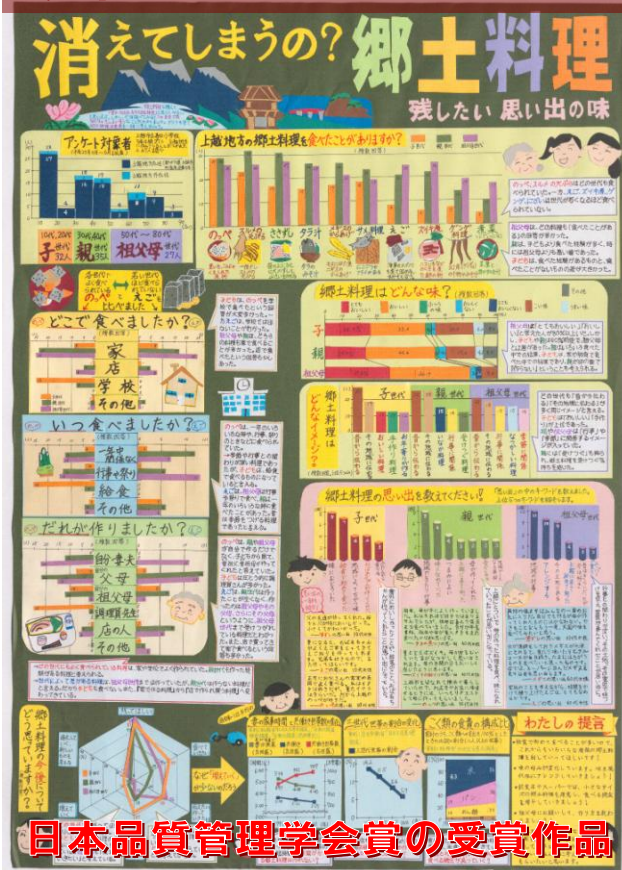
去る10月5日開催の審査委員会では統計センター理事・渡辺美智子審査委員長はじめ12名が審査にあたり、大分県立国東高等学校1年の上岡美月さんと（一般）上岡史子さんの作品で「子どもの貧困と支援の輪」が「日本統計学会会長賞」に選出されました。

表彰式は11月13日（月）に代々木オリンピック記念青少年総合センターで開催される第67回全国統計大会で行われます。

統計データ・グラフフェアの展示コーナー



今年もセンサスくんとみらいちゃんが子供たちに大人気です



上は今年度「日本品質管理学会賞」の受賞が決まった新潟県上越市立春日小学校5年の小川芽生の作品「消えてしまうの？ 郷土料理 残したい思い出の味」です。



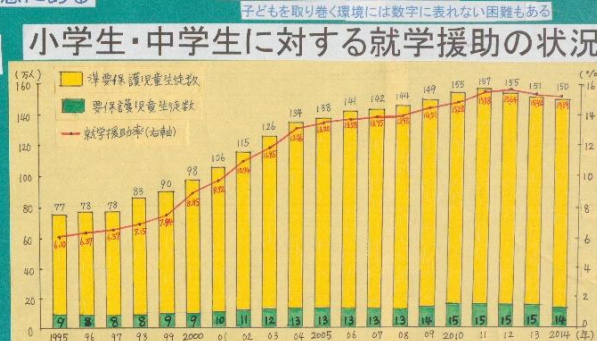
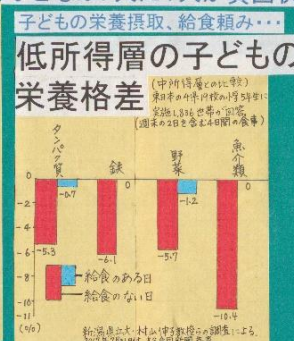
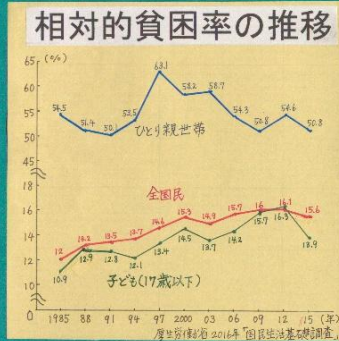
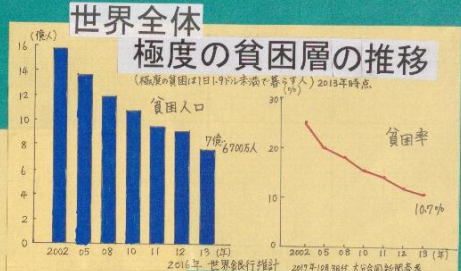
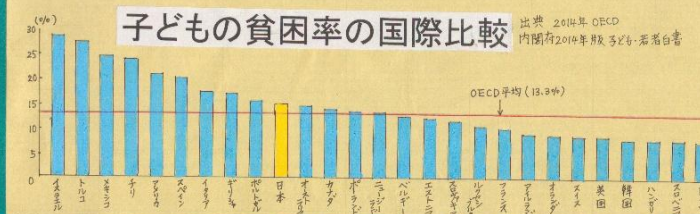
今年度「統計の日」の標語は10,517点の応募作品の中から特選に選ばれた滋賀県守山市統計調査員の近松清司さんの「統計が教えてくれる地域力」でした。

子どもの貧困と支援の輪

子どもの貧困はあなたのすぐそばにあるかもしれない...

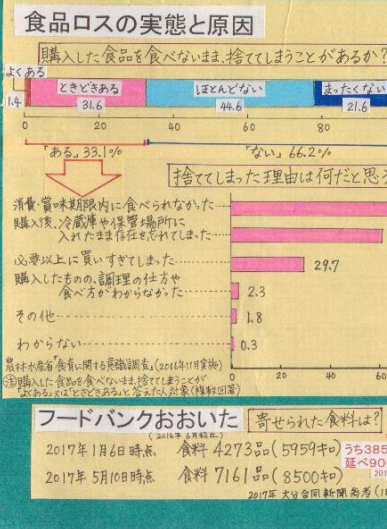
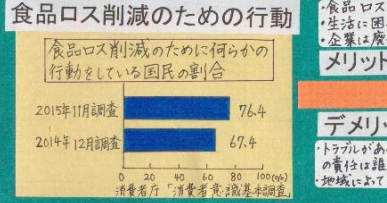
現代の貧困は見えにくく、外見は他の子と一緒にだが食費も満足に払えない家庭が多くあるといわれている。経済状況だけでなく、社会的なつながりが持っているのか、適切な食事が取れているのか、教育の機会が均等に与えられているのかなど、きめ細かい把握と対策が必要になっている。子どもの貧困の深刻さと生活の基本となる「食」についての支援を伝えていきたい。

日本の子どもの貧困率はOECD加盟国34か国中10番目に高く、OECD平均を上回っている
子どもがいる現役世帯のうち、ひとり親世帯の貧困率はOECD加盟国中最も高く50.8%でOECD平均(31.0%)を上回っている



日本の「食品ロス」約621万

家庭系 うち可食部分と考えられる量・282万トン
事業系 うち可食部分と考えられる量・339万トン



食べ物を必要な人へ

フードドライブ
各家庭で余った食品を学校や職場グループ等様々な機関・団体が拠点となり食品を集めそれを必要とする人々にフードバンクを通じて寄付する活動。

寺の支援団体
お供えを困窮家庭の子どもたちへ「おてらおやつクラブ」

年	寄付数	協力団体数	子ども数
2014	110	15	200人
2015	240	70	2,000人
2016	520	160	5,000人
2017(暫定値)	722	256	8,000人

「社会」「地域」「家庭」のぬくもりに触れ合える居場所

子ども食堂ネットワーク
地域で子ども食堂を運営している人達が交流し、子ども食堂の輪を広げるための連絡会。全国で200ヶ所超え。大分県内では1カ所が参加している。2017年子ども食堂ネットワーク事務局

フードバンク
北陸道地方 79%
近畿地方 9%
北北・中北地方 14%
東北地方 14%
中国・四国地方 16%
関東地方 24%
中部地方 16%

活動団体 74

今年度「日本統計学会会長賞」の受賞が決まった大分県立国東高等学校1年の上岡美月さんと(一般)上岡史子さんの作品で「子どもの貧困と支援の輪」です。